

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2392		
科目名	法学特殊講義2（経済法）		
担当教員	中村 良		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	金 3		
講義室	1206	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-H〔論理的思考力・批判的思考力〕理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-F〔探求力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答え・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 ■CRコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1 学識と専門技術（60%） H1 論理的思考（20%） I1 理解・分析と読解（20%）		
教員の実務経験	■ありません。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進行期 ～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	■授業概要 企業競争におけるルールがなければ利益のために何でも行う企業が現れかねません。真っ当な企業が不正に出し抜かれたり、消費者が欺かれたり搾取されたりする事態が予想されます。経済法は、原則的に自由な企業競争が保証される市場経済下で、最低限、公正な競争を確保するための企業競争のルールであります。本講義では、私的独占、不公正な取引方法、不当な取引制限等の独占禁止法の基礎概念、並びに、不正競争防止法、景品表示法、下請法等関連法規における規制の意義を理解することを目的とします。授業形態は(講義・実技・実習・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード カルテル、談合、独占、トラスト、合併、競争制限、公正競争阻害、公正取引委員会		
授業の趣旨	■副題 私的独占の禁止および公正取引確保に関する法律（以下、独占禁止法という）を中心とする経済法の基礎的知識を理解し応用できる担当者になりましょう。 ■授業の目的 現代社会においては独占禁止法を中心とする経済法の正しい知識を無くして企業活動を行うリスクは高いです。そのようなリスクに対処できる経済法に関する専門的知識を修得し、経済法の諸問題を正確に理解・分析し、適切な対応ができるスキルを身に付けることを目的とします。		

	■授業のポイント 独占禁止法の背景にある経済理論と、公正取引委員会の実務（審決、ガイドライン）、および判例についての専門的な知識を修得し、それを応用できる力を修得することがポイントとなります。	
総合到達目標	一般総合目標【GIO】 独占禁止法および関連法の背景にある経済理論、制度趣旨、基礎概念についての専門的な知識を理解する。 経済法上問題となる実際の事例を、学修した専門知識を用いて論理的に理解・分析し、妥当な解決を図れるようになる。 個別行動目標【SBOs】 1 経済法を学ぶ意義や学修方法を正確に説明できるように 経済法とは何か、経済法を勉強する意義について専門的な知識を論理的に整理分析できる（1回）。 経済法の歴史的背景、その背景にある経済理論、そして独禁法の概要を自分の言葉で事例をあげて説明できる（2回）。 2 独占禁止法の基礎的知識について正確に説明するために 基礎概念、手続、執行機関について自分の言葉で説明できる（3回目）。 3 不当な取引制限について事例をあげて説明するために 構成要件を具体的に説明できる（4回、5回、6回） 4 私的独占について事例をあげて説明するために 構成要件を具体的に説明できる（7回、8回、9回） 5 不公正な取引方法について事例をあげて説明するために 法律要件を具体的に説明できる（10回、11回、12回、13回）。 6 下請法、景表法について事例をあげて説明するために 法律要件、執行手続、執行機関について具体的に説明できる（14回、15回）。	
成績評価方法	■リアクションペーパー6回（30%）：適用ルーブリックH 1、I 1 〔評価方法〕講義の理解度および何をどのように感じたかを論理的に説明できるかを評価します。 〔フィードバックの方法〕翌週の講義でコメントします。 ■レポート2回（20%）：適用ルーブリックE 1 〔評価方法〕基礎的な知識を理解しているかを評価します。 〔フィードバックの方法〕翌週の講義で出題意図、間違いやすい点等を解説します。 ■ポータルを用いた論述テスト1回（30%）：適用ルーブリックE 1、H 1 〔評価方法〕事例に対して適切な法律を適用し、妥当な結論を導き出せるかを評価します。 〔フィードバックの方法〕翌週の講義で出題意図、解答のコツ等解説します。 ■リサーチペーパー1回（20%）：適用ルーブリックH 1、I 1 〔評価方法〕必要な資料を検索し、適切な資料整理が出来ているかを評価します。 〔フィードバックの方法〕翌週共有フォルダにコメントを載せます。確認して学修に活用して下さい。	
履修条件	■ありません。	
履修上の注意点	■皆さんの生活のなかで、「競争」がどのような働きをしているのか、そのメリット、デメリットを考察してみてください。 ■新聞、TVのニュースで、「入札談合」、「カルテル」、「不当廉売」等の経済法に関連する情報に注意を払って下さい。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 授業ガイダンス ②授業概要 授業の対象、学修方法、評価方法、資料の検索等を理解する。 経済法とは何か、経済法を勉強する意義について専門的な知識を論理的に理解する（E 1、H 1）。 ③予習(120分) 新聞、TV等で、経済法（特に独占禁止法）に関連するニュースを探す。当該ニュースについて自分なりに調べる。 判例六法を携帯する。 ④復習(120分) 授業ノートを見直し、講義で説明した資料の検索方法を実施してみる。 経済法の意義を自分なりに考察してみる。
	2	①授業テーマ 独占禁止法総論

	②授業概要 経済法の歴史的背景、その背景にある経済理論、そして独禁法の概要について専門的な知識を理解する（E 1, H 1, I 1）。 「競争」のメリット、デメリットについて考察する（E 1, H 1, I 1）。 審決・判例の検索方法と関係図・時系列表の作成方法を理解する（E 1, H 1, I 1）。 リアクションペーパーで授業全体の理解を確認する。 ③予習(120分) 身の回りの「競争」について観察し、そのメリット、デメリットについて考えてみる。 ④復習(120分) 「競争」のメリット、デメリットについて、もう一度考えてみる。 授業で取り扱った判決・審決の事実を確認しておく。
3	①授業テーマ 独占禁止法の基礎概念 ②授業概要 基礎概念（「事業者」、「一定の取引分野」、「競争の実質的制限」、「公正競争阻害」）について専門的な知識を修得し自分の言葉で説明できるようになる（E 1）。 基礎概念が争われた審決・判例を論理的に理解・分析し、当該審決・判例の妥当性を考察する（E 1, H 1, I 1）。 前回リアクションペーパーのコメントを学修に活用する。 レポートで専門知識の理解を確認する。 ③予習(120分) 指定された審決・判例を熟読し、関係図、時系列表を作成する。 ④復習(120分) ノートを見直し、授業で取り扱った審決・判例を類似の事例に適用できるようにする。
4	①授業テーマ 不当な取引制限（総論） ②授業概要 不当な取引制限について、規制意義、構成要件等について専門的に知識を理解する（E 1）。 当該知識を事例に適用できるようになる（E 1, H 1, I 1）。 前回レポートの解説で理解度を高める。 ③予習(120分) 指定された審決・判例を熟読し、関係図、時系列表を作成する。 ④復習(120分) 授業で修得した専門知識を類似の事例にも論理的に適用し、妥当な結論を導けるようになる。
5	①授業テーマ 不当な取引制限の「共同行為」の認定に関する考察 ②授業概要 不当な取引制限の「共同行為」認定についての専門的な知識を理解する（E 1）。 当該専門知識を事例に適切に適用できる（E 1, H 1, I 1）。 授業内容を自分の言葉で説明できるようになる。 リアクションペーパーで授業全体の学修状況を確認する。 ③予習(120分) 指定された審決・判例を熟読し、関係図、時系列表を作成する。 ④復習(120分) ノートを見直し、授業で取り扱った審決・判例と類似の事例についても適用できるようにしておくこと。
6	①授業テーマ 不当な取引制限の「共同行為」認定で争われた事例の考察 ②授業概要 不当な取引制限の「共同行為」に関連する法的諸問題について専門的知識を修得する（E 1）。 修得した専門知識を具体例に適切に適用できる（E 1, H 1, I 1）。 前回リアクションペーパーのコメントを学修に活用する。 レポートを課す。 ③予習(120分) 指定された審決・判例を熟読し、関係図・時系列表を作成する。 ④復習(120分) 授業で修得した専門的知識を類似の事例についても適用できるようにする。

7	①授業テーマ 私的独占（総論）、排除型私的独占についての考察 ②授業概要 私的独占の意義、構成要件について（特に排除型私的独占について）の判例・審決の理解を通じて専門的な知識を修得する（E 1, H 1, I 1）。 修得した専門的な知識を具体的な事例に適用し、妥当な結論を導けるようになる（E 1, H 1, I 1）。 レポートの解説で理解度を高める。 ③予習(120分) 指定された審決・判例を熟読し関係図、時系列表を作成する。 ④復習(120分) 修得した専門的知識を類似の事例についても適用できるようにする。
8	①授業テーマ 支配型私的独占についての考察 ②授業概要 支配型私的独占について専門的な知識を習得する（E 1, H 1, I 1）。 修得した専門的知識を類似事例に適切に適用できる（E 1, H 1, I 1）。 ③予習(120分) 指定された百選の審決・判例を通読しておくこと。 ④復習(120分) ノートを見直し、授業で取り扱った審決・判例と類似の事例についても適用できるようにしておくこと。
9	①授業テーマ 私的独占（混合型）についての考察 ②授業概要 私的独占の支配および排除が混在する混合型私的独占についての専門的知識を習得する（E 1, H 1, I 1）。 当該専門的知識を類似の事例に適切に適用できるようになる（E 1, H 1, I 1）。 リアクションペーパーで授業全体の理解度を確認する。 ③予習(120分) 指定された審決・判例を熟読し、関係図・時系列表を作成する。 ④復習(120分) 授業で修得した専門的知識を類似の事例に適用できるようになる。
10	①授業テーマ 不公正な取引方法総論、取引拒絶（共同・単独）の考察 ②授業概要 不公正な取引方法の全体像と公正競争阻害性および取引拒絶（共同・単独）について、審決・判例をふまえ専門的知識を習得する（E 1, H 1, I 1）。 修得した専門的知識を類似事例に適用できるようになる（E 1, H 1, I 1）。 ③予習(120分) 指定された審決・判例を熟読し、関係図・時系列表を作成する。 ④復習(120分) 授業で修得した専門的知識を類似の事例に適用できるようにする。
11	①授業テーマ 差別対価・差別的取扱いの考察 ②授業概要 差別対価・差別的取扱いについて、審決・判例をふまえ専門的知識を習得する（E 1, H 1, I 1）。 修得した専門的知識を類似事例に適用できるようになる。 前回リアクションペーパーのコメントを学修に活用する。 ③予習(120分) 指定された審決・判例を通読し、関係図・時系列表を作成する。 ④復習(120分) 学修した専門的知識を類似事例に適用できるようになる。
12	①授業テーマ 拘束条件付取引・再販価格維持行為についての考察 ②授業概要 拘束条件付取引・再販価格維持行為について、審決・判例をふまえ専門的知識を習得する（E 1, H 1, I 1）。 修得した専門的知識を類似事例に適切に適用できるようになる（E 1, H 1, I 1）。 リサーチペーパーについて理解する。

	③予習(120分) 指定された審決・判例を熟読し、関係図・時系列表を作成する。 ④復習(120分) 授業で修得した専門的知識を類似事例に適用できるようにする。 リサーチペーパーの意義、作成方法を確認する。
13	①授業テーマ 優越的地位の濫用・下請法の考察 ②授業概要 優越的地位の濫用の制度趣旨、要件、手続について、専門的を修得する（E1, H1, I1）。 リサーチペーパーを提出する。 ③予習(120分) リサーチペーパーを作成する。 指定された審決・判例を熟読し、関係図・時系列表を作成する。 ④復習(120分) 授業で修得した専門的知識を類似事例に適用できるようにする。
14	①授業テーマ 景品表示法の考察 ②授業概要 景品や表示に関する法規制について、審決・判例を踏まえた専門的知識を習得する（E1, H1, I1）。 授業で修得した専門的知識を身近な事例をあげながら自分の言葉で説明できるようになる（E1, H1, I1）。 リサーチペーパーについてコメントでリサーチペーパーの意義、作成方法等の理解を深める。 ③予習(120分) 指定されたHPを閲覧し、内容を理解する。 ④復習(120分) 身近な景品表示法違反の事例を探し、その問題点を考察する。
15	①授業テーマ 企業結合規制の考察 ②授業概要 独占禁止法で規制される企業結合に関連する専門的知識（規制意義、要件、基礎的な経済的理論等）を習得する（E1, H1, I1）。 規制される企業結合について、自分の言葉で説明できるようになる。 ポータルを用いた論述テストで、出題意図、適切な分析、解答の論理性等の理解を確認する。（翌週、解説を「授業共有フォルダー」で確認すること） ③予習(120分) 指定された審決・判例を熟読し、関係図・時系列表を作成する。 ④復習(120分) 授業で修得した専門的知識を類似の事例について適用できるようにする。
関連科目	■「企業組織と法」（RMGT2352）、「企業統治と法」（RMGT2353）、「民事法Ⅰ」（RMGT2341）、「民事法Ⅱ」（RMGT2342）、「民事法Ⅲ」（RMGT2343）、「民事手続と法Ⅰ」（RMGT2371）、「民事手続と法Ⅱ」（RMGT2372）、「犯罪と法」（RMGT2331）、「企業コンプライス論」（RMGT3307）
教科書	■金井他編『別冊ジュリスト234号 経済法判例・審決百選＜第2版＞』（有斐閣、2017） ■判例六法
参考書・参考URL	■参考図書 根岸哲編『注釈独占禁止法』（有斐閣、2009） ■参考URL 公正取引委員会HP（http://www.jftc.go.jp/）、消費者庁HP（http://www.caa.go.jp/）
連絡先・オフィスアワー	■オフィスアワー 水曜3限。それ以外の時間は研究室で対応するのでメールでアポイントメントをとってください。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%：パブリックセキュリティー25%：グローバルセキュリティー25%：情報セキュリティ25% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学50%：法学50%

